

5分で読める「2019年センター試験」総評

今年度の総評

2019年1月、平成最後となったセンター試験が実施されました。2021年からは記述式問題や英語4技能（読む・聞く・話す・書く）が問われる「大学入学共通テスト」が迫る中、今年のセンター試験にもその影響が僅かながら出てきているようです。

英語の総評

・英語筆記の出題（全体の難易度は昨年度並み）

出題形式に大きな変更はありませんでした。第3問～第6問の読解問題の本文語数は約2800語で、昨年度より100語程減ったものの、設問選択肢を合わせた総語数は約3700語で、昨年度とほぼ同じであり、全体として取り組みやすい問題が多かったと思います。第5問では昨年は日誌の抜粋から出題されましたが、今年は物語風のエッセイに変わり、全体として昨年度より取り組みやすくなったと思います。

・英語リスニング（全体の難易度は昨年度よりやや易化）

出題形式に大きな変更はありませんでしたが、放送される英文と設問選択肢の総語数は約1890語で、昨年度より170語程度増加しました。第3問Bの題材が昨年度の地図から博物館の展示広告に変わったことが主な要因ですが、聞き取る英文の量は変わりませんでした。

文系科目の総評

国語の現代文では、評論で会話文に基づく問題が出題されましたが、昨年度のような図を伴う問題は出題されませんでした。また、古文は室町時代の御伽草子からの出題で読み取り易かったですが、漢文は込み入った内容で本文の通読にやや時間がかかったと思います。日本史では視覚資料問題が姿を消すなど、これまでのセンター試験と大きく異なるものでしたが、全体では昨年並みの難易度であったと思われます。世界史と地理は昨年よりやや難化し、正確な知識が必要な問題が増加しました。公民は政経分野で、図表読解問題の大幅減少がありましたが、全体として例年並みの出題となりました。

理系科目の総評

数学は、数ⅠAでは分量はあまり多くなく、昨年と同程度の難易度でした。考える時間がかかり必要で、易しい問題と難しい問題の差がやや大きかったように思います。また数学ⅡBは前半の数Ⅱの部分は取り組みやすく、後半の数Bはやや手間がかかる問題でした。理科は、物理・化学・地学では思考力を問う問題が増加し、知識だけではなく、情報処理力、考察力も問われました。また、理科基礎は物理基礎・化学基礎で基本的な問題が多く、解答しやすかったと思います。生物基礎・地学基礎では問題のページ数が増え、生物基礎は考察問題が大幅に増加したため、やや難しかったと思います。

総括と今後について

今年のセンター試験でも、昨年と同様に出题傾向の変化やこれまでにないような出題がみられました。また昨年は私立大学の定員厳格化により、私立大学入試の難易度も上がり、今年も同様の傾向が出てくると考えられます。この後、私大・国公立大入試を控えているみなさん。センター試験は通過点です。点数に一喜一憂せず、この後の試験に備え、一日一日を大事にして合格を勝ち取りましょう。

以上